



平成26年度 港南区地域福祉保健計画 地区別計画推進研究会を開催!

各地区の計画推進の取組を共有し、より一層の活動の充実に向け毎年行っている地区別計画推進研究会。11月4日に開催した今年の研究会は、各地区の活動の中で生まれた新たなつながりや輪の広がりについて参加者の皆さんで共有し、平成28年度からの次期地域福祉保健計画地区別計画策定に向けスタートを切る会となりました。

研究会は2部構成で、第1部では大久保最戸、野庭団地、永谷の3地区の事例発表などを行い、第2部では横浜市まちづくりコーディネーター山路清貴さんを進行役に、第1部の発表者全員でパネルディスカッションを行いました。

第1部 事例発表

大久保最戸地区

気楽に長く、できることから活動を続けよう!

大久保最戸地区では、地区別計画を作ることで、具体的な目標が共有でき、現在につながっています。目標の「自分の暮らす町へ興味を持とう」では、地域のお気に入りスポットのマップづくり、マップを活用した歩こう会の実施。また、「安全安心の魅力あるまちづくり・顔の見える関係づくり」の目標では、地域の子育てママの交流の場として「ハートカフェ」や、高齢者の交流を目的とした「落語deハートカフェ」を実施しています。今後に向けて、ハートのあるまちづくりの活動を気楽に長く、ずっと続けていき、地域の方々に愛されるまちを目指したいとの希望で発表を締めくくりました。

ハートカフェ 毎回たくさんの親子が参加



野庭団地地区

団地全体で進める、多世代のつながり作り!

野庭団地地区では、地域支えあいネットワーク会議を地区別計画推進の一環として実施して、住民、団体・グループ、自治会、管理組合等の連携を図りながら、住民同士の支えあい、安心の地域づくりを進めています。また、住民が楽しく交流できる場として「ふるさとのば福祉の集い」と住民同士の交流・地域の再発見の場にもなっている「健康づくり歩こう会」を実施しています。これまで「安心・安全」「明るく住みやすい」「ふるさとのば」を取組のテーマとしてきましたが、今後はより一層「多世代参加のまちづくり」を進めていきたいとの発表がありました。



健康づくり歩こう会 住民の交流の場に

永谷地区

地域の活動を「自分事」としてとらえるには?

永谷地区 地区別計画では、「ながーく住みたい ながや」そのためにどんな街にしていきたいか、検討され、現在の取組に至っています。まずは知り合うこととして、「シャッフルボード*大会」「ぼっぼに乗って」ミニSLイベント等で、顔見知りの関係を築いています。また、話し合いの場として、「永谷地区地域支えあいネットワーク」があり、防災や見守りなどテーマを設定し、地域の関係する方(自治会、福祉保健関係者だけでなく、学校や商店なども)に声をかけ、話し合い・つながりの輪が広がっています。地区別計画があることにより、

このネットワークの充実やつながりの輪が広がってきたことが成果とのこと。最後に、これからの課題としてボランティア人材の育成との説明があり、その活動自体をいかに「自分事」として捉えるには、どうしたらよいのかと、会場参加者に問いかけがありました。

*シャッフルボードは、細長い杖(キュー)で円盤(ディスク)をコート上に押し出し、コート内に描かれた得点区域にディスクを多くとめることで得点を争うスポーツ。



「ぼっぼに乗って」ミニSLイベント 声のかけ合える関係づくりに

●第1部では3地区の事例発表のほかに、区役所より地域福祉保健計画は地域をより良くするための計画であることを再確認し、平成28年度からの第3期港南区地域福祉保健計画策定に向けた説明をしました。

第2部 パネルディスカッション

★つながりづくりや活動の輪を広げるポイント★



会場からの質問をもとに防災や子ども、地域愛など幅広い分野について話し合いました。つながりづくりや活動の輪

を広げるために日頃考えていることについて、たくさんのお話をいただきました。

進行役の山路さんから

地域の支えあいには縦割りではなく、つながりや活動の輪を広げる様々なアプローチが大切。この横のつながりが地域の強みとなるのではないのでしょうか。

普段から声を掛け合える関係づくりが大切

転入者や子育て中の親など、地域のことを知りたいという人をターゲットに

地域のことを「自分事」として捉えてほしい

学校と協力し、子どもが自分の住む地域を好きになるように

具体的な成果があることで次につながる



参加者の声

地域を良くしようとの活動に、20、30歳代の顔が見えず、課題。どのように知ってもらい、来てもらうか?

地域福祉保健計画も、回を重ね、全体のレベルが上がってきたと感じました。(港南区社会福祉協議会 会長)

「地域づくり」というものを、新しく作ろうとするだけでなく、長い年月をかけて育まれてきた地域の取組を引き継いでいくことも、大切であると思います。ただ、少子高齢化の社会変化も対応が必要で、皆さんと知恵を出し合い協力しながら進んでいきたいと思っています。そして、力を合わせて「ふるさと港南」を作っていきましょう。よろしくお願いたします。



港南台 かもめ団地 かもめカフェ

●なりたい●

港南台かもめ団地は、駅に近くお店も多く便利な立地。乳幼児のいる世帯や高齢者の一人暮らしの方、外国人の方も多く住んでいます。しかし転入転出が多く、団地内にどんな人が住んでいるか把握しづらい現状があり、このカフェは、「まずは顔の見える関係づくりをしよう」と始まった取り組みです。自治会役員を中心に、港南台地域ケアプラザと連携して、誰でも参加できる「かもめカフェ」を実施しています。



●第1回 平成25年12月
かもめカフェ 57名参加



- 手作りケーキとお茶
- ベビーマッサージ
- ケアプラザによる生演奏を実施

毎回、港南福祉ホームの方も出店。

●第2回 平成26年5月
かもめカフェ 76名参加



●第3回 平成26年8月
かもめ夏祭り 約100名参加



- 飲み物・お菓子作り
- ビール、おつまみ、おにぎり、から揚げなど

毎回、幅広い世代の方たちが参加。若いお子さん連れもいらっっしゃいます。

次回予告

かもめカフェ

港南台かもめ団地
集会所にて

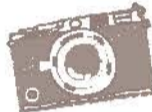
12月11日
10時開店

ぜひ皆さん
来てください!!



大事にしていること

- 手作り看板で初めての方も気軽に参加しやすい雰囲気づくり
- 主催者が常に「楽しい」と思うことを大事に
- 自分たちでできることを無理しない
- ボランティアではなく、お手伝い募集とし、気軽さを演出
- お手伝いの若い世代の意見を取り入れる
- 毎回の打ち合わせで大事にしたいことを確認



取材を通じて… かもめカフェやお祭りは、赤ちゃん、子どもから高齢者まで、幅広い年代の方がふらっと立ち寄れる雰囲気があります。自治会長をはじめ、関わっている人たちも気負わず自然体で取り組んでいらっっしゃいます。楽しみながら細長くやりたい。だから無理はしない。このラフな感じが新たな参加やお手伝いの方を惹きつけているようです。

地域で活動する人物・グループ紹介 2

地域には様々な形、動機で活動している人たちがいます。

連載コラム

こうなん
この人に聞きました



絆塾♥下永谷 地域の仲間がつながる場を

「絆塾♥下永谷」は、自分の暮らす街にケアプラザという福祉保健活動の拠点があるのだから一緒に何かできないか、防災のことや介護のこと等もっと色々知りたい!という下永谷地区住民の声がもとになり、平成23年に生まれました。



絆塾♥下永谷のみなさん

「集まって何かやるには名前がないとね」ということで我が街でも改めて地域の絆を見直そうと、連合町内会長の提案された「絆塾」に決定。その年の12月の「ケアプラザ文化祭」を皮切りに「HUG(避難所運営ゲーム)」、災害時の自助力を高めるための「避難所サバイバル体験会」、「防災マップ作り」、地域で暮らす障害者のことを知ろうと「障害者作業所ボランティア体験」と進めてきました。今年で4回目を迎えた文化祭は、団体同士の理解や交流がより深まるように、参加団体が自分たちの活動発表だけでなく、他の団体の活動紹介を行うなど毎回の反省を生かし、工夫を凝らしています。

このように、絆塾はそれぞれのもつ強みと、アイデアを出し合いながら、今後も地域の人たちの【輪】を繋ぎ、【絆】を強める役割を担う会であり続けたいという思いを持って活動を続けています。

ケアプラザ文化祭

ケアプラザで活動する団体の活動発表のほか、中学校の壁新聞の掲示などを行っています。



HUG (避難所運営ゲーム)

東日本大震災後、間もないこともあり緊張感のある訓練となりました。



避難所 サバイバル体験会

災害時に物資等が届くまでの間を生き抜くことをテーマに行っています。